

自己： 自分に向き合う

かたよらない心、こだわらない心、とらわれない心、ひろくひろく、もっとひろく 高田好胤

1. 人格に向き合う

- ・ 資本主義社会において、資本家・経営者・消費者はいずれも人格を問われない、「お客様は神様」
 - お金が入から人格を奪う ▶ 311チャリティーコンサートのスタッフと観客の話
 - 人は、①責任を問われない、②できる、環境において、ほぼどんな悪でも成し得る ▶ [「ミルグラム実験」](#)は、現代社会のリーダー、消費者、資本家の姿と重なる
 - ◇ 1960年代、質問に答えられない「生徒」に「教師」が電気ショックを与える実験。電圧は14ボルトから450ボルトまで設定。教師役の60%は、生徒役(実際には電流が流れておらず、演技をただけ。)がショックで苦痛の表情を見せても、「博士」からの「命令」に従い、最大450ボルトまで電圧を上げていったという。
 - 殆どの人は逆境に耐えられる。人格を試したいなら、権力を与えよ (A.リンカーン) ▶ 権力とは試練である
- ・ 組織が抱える問題の多くは、トップマネジメント層における人間関係の問題に起因している。そうした問題に直面し、解決を図ることの方が、多くのプロジェクトや仕事に労力を投入するより、遥かに高い人格を必要とする (S.コヴィー)
 - 過去 60 年間のインフレ市場では、「価格」>「価値」の収奪モデルが可能であり、不誠実かつ甘い事業でも儲かる、ごまかすほど、すばやくお金になった ▶ リーダーシップに人格は不要であり、組織でも社会でも、その重要性を問われることはなかった
 - リーダーシップの失敗は、現場で修正できない ▶ 組織において、トップの人格が何よりも重要であるにも拘らず、現代社会はトップを人格で登用するシステムが存在しない ▶ 問題の根源
 - あなたが明日、組織を任されたとしたら、組織はどうなるだろう？ ▶ 今の自分に不足しているものは何だろう？ ▶ そのギャップを埋めるために、今できることは何だろう？
- ・ リーダーシップは「第二領域」の問題である
 - 「第二領域」の問題は、その殆どが、人間関係に関する問題である
 - 人間関係に関する問題解決は、「効率」が全く機能しない ▶ むしろ、効率を追うほど問題が深くなる(恋人との別れ話、顧客とのトラブル...) ▶ 人格によってしか対応できない諸問題 ▶ すなわち、リーダーシップとは、「効率」を手放すことでもある
 - 逆に考えれば、効率を追究する社会で、人間関係が希薄になるのは当然である ▶ 人間関係に向き合う行為は、非効率なものだと考えられている ▶ 効率と収益が何よりも重視される社会で、責任を問われず、自由に振る舞える立場にしながら、効率を手放すことができるか？
 - 一般に、人が「第二領域」を避ける主因は、人間関係に向き合うことを避けるため

2. いま、愛なら何をするだろうか？

- ・ 「人間関係のあらゆる接点において、愛を選択する」ということの意味とは何だろうか？

1. 捨てる

- ・ ロープにしがみついた人の話 (<http://www.trinityinc.jp/updated/?p=388>)
 - 「捨てる」という生産性
- ・ 「捨てる」ということの意味
 - 何かを**選択する**ということは、他のものを捨てるということ ▶ 何かを捨てていないのであれば、あなたは選択していない
 - ◇ 価値あるもののために、何を捨てられるか？ ▶ **本当の夢とは、「何をしたいか」ではなく、「何を捨てるか」で決まる** ▶ 何も捨てなければ、夢は夢で終わる
 - ◇ 断りにくい申し出に NO と言えるか？ ▶ 人間関係にある意味「捨てる」必要がある ▶ その決断の後ろには、信念ある YES が必要 ▶ 捨てるということは、選択するということであり、燃えるような選択がなければ、捨てることはできない
 - **正直である**ということは、捨てるということ ▶ オープンに生きられるか？
 - **交渉**とは、捨てるということ
 - ◇ 「捨てた」人間との交渉は不可能(最も手強い交渉相手) ▶ 執着が怖れを生み出す原因
 - 命もいらず、名もいらず、官位も金もいらぬ人は、仕抹に困るもの也
此の仕抹に困る人ならでは、艱難を共にして 国家の大業は成し得られぬなり
西郷隆盛の山岡鉄舟評
 - 山岡鉄舟は、幕府の代理人として実質的に江戸無血開城を交渉した人物(幕府を「捨てる」ことで国体を守った、日本が世界に誇るべき史実)
 - 大事な人に**真実を語る**、**重要な忠告をする**ことは、捨てるということ
 - ◇ **機長が操縦桿を握っているときの方が圧倒的に墜落事故率が高い** ▶ 副操縦士が機長に、「貴方は間違っている」と言えないため ▶ 上司から操縦桿を奪うことができるか？ ▶ 無事着陸し、何事もなかった後の人間関係を捨てる必要がある
 - **人を育てる**ということは、自分を無価値にする(捨てる)こと ▶ 実は自分を最大限活かすこと
 - ◇ 部下に料理を教えない料理長の話 ▶ 自分の地位が脅かされるのを怖れる料理長
 - ◇ リーダーの最大の目的は、自分を超越るリーダーを生み出すことである
 - ◇ 「人を育てることが、最も自分の価値を高める」ということを、どこまで信じられるか？
 - **愛する**ことは、(執着を)捨てるということ
 - ◇ 人生においてもっとも大切なものは、自分に向けられる無償の愛 ▶ 無償の愛を経験できるのは、3~5 歳までの期間に親が受け取る**子供からの愛のみ** ▶ 愛が条件付であると最初に学ぶのは自分の親から。夫婦の愛も多くの場合条件付き ▶ 「子供は誰でも3歳までに一生分の親孝行を終えている」 ▶ 親が子供のために命を賭けるのは、愛しているからというよりも愛されているからではないか？ ▶ 子供が親のために命を賭ける話はあまり聞かない

- 親を愛せなくても自分を責める必要はない ▶ 親も子供を愛せないと悩むことはない
- 社会の工業化・核家族化の弊害 ▶ 大家族が消失し、無償の愛に二番目に近い「おばあちゃんの愛情」が、家庭から、社会から消えた ▶ 両親は自分に無償の愛を提供してくれる子どもに対する執着を増し、子供を失うことを恐れ、子どもから嫌われることを恐れ、子どもに迎合し、その意図にそぐわない者を激しく攻撃するようになり、モンスターペアレンツが生まれた ▶ 「子どものため」に見える一連の行動は、自分のため、自分の執着に過ぎない
- ◇ 執着は相手を縛り、愛は相手を自由にする ▶ 手放すことができないすべてのモノは、愛情の姿をした執着に過ぎない ▶ 愛の本質は、手放すことにある
 - 一人の赤ん坊を巡って二人の女性が取り合う話(旧約聖書)：二人とも赤ん坊は自分の子どもだと王様の前で主張しあうが、やがて王は「赤ん坊を半分にして分け与えよ」と命じる。すると一方の女性が「それならば子どもをあの女性に渡してください。」と諦める。賢い王は真実を見抜き、子供を手放した方の女性に子供を託す ▶ あなたは子供を手放すだろうか？
- ◇ 親と子の関係は、経営者と従業員の関係に似ている ▶ 従業員は経営者から搾取されながら、経営者をかばい続ける ▶ 一方で、経営者は従業員を実質的に利用しながら、従業員(会社)のことを「愛して」と考えている
- 捨てるフリをして逃げるな
 - ◇ もともと逃げたい、と思っているものを、捨てる(フリ)することは逃げでしかない
 - ◇ 捨てるべきはエゴであり、地位や財産や人間関係など、目に見えるものが本質ではない

2. 明らかに見る

- ・ 明らかに見る(諦める)
 - 資本主義社会とは、お金を支払う人の人格を無条件に肯定する社会 ▶ お金を持っていれば、利害が一致すれば、「いい人」▶ 人間を見抜くことを誰もしなくなった社会 ▶ 我々の社会に「人間」は存在しない、「消費者」「資本家」「経営者」という、人格を失った生き物だけが存在する
 - ◇ 人をどう見抜くかは、「自分は誰か？」を定義するということでもある ▶ 「何でも好き」「皆いい人」という世界観に生きることは、「本当に良いもの」、「本当に良い人」に関心がない、自分というものがない人生
 - ◇ 一見前向きなようでいて、全てを良いものとして扱い(肯定するということは実は意味が違う)、物事を曖昧にする気持ちは、多くの場合自分の中途半端な生き方と向き合いたくない、という潜在意識の現れ
- 行動と結果だけを見る
 - ◇ 「その人が得たものが、その人の真の意図」と仮定してみる
 - 給料が上がらない？労働時間が減らない？ ▶ 「労働環境を改善しないことが経営者の意図」と考えてみる ▶ 今、給料を上げられない理由は、今後 100 年給料を上げない理由と同じ ▶ 真実には必ず「今」、兆しがある
 - 一切の不可抗力は、その人の望みだと解釈してみる
 - ダメ男の彼氏に悩む女性は、ダメ男が大好き、と仮定してみる
 - 本性は行動に現れる ▶ 理屈ではない、筋が通らなくても関係ない ▶ 酒の席、お金の使い方、本当に困ったときの姿勢、お金を持ったときの態度

- ◇ 言葉を見捨てる ▶ 例えば、「ありがとう」、「感謝」、という言葉を使わずに伝わるものが本当の感謝のメッセージ ▶ 耳障りの良い「説明」を一旦見捨てる、(例)沖縄のため
- オープンか？ オープンでない唯一の理由は、なにかを隠すため ▶ 何かを隠す唯一の理由は、自分だけが得をするため
- ◇ 今すぐ、あなたのすべてをオープンにできるか？ オープンにできないことは何だろう？ 奥さん、ご主人に言えないことはあるか？ それはなぜだろう？ それを修正できるだろうか？ 修正したらどんな不都合が生じるだろう？ それはなぜ不都合なのだろう？
- この瞬間だけを見る
- ◇ 時間を見捨てる、明日死ぬが如く、今、何をやるかが、その人の全て
 - 「またゆっくりお話ししましょう = 話したくない」、「いつかやる = やらない」、「難しい = やりたくない」「是非やりたい = やりたくない」
- ◇ 10 年後の理想を「今」生きているか？ = 自らがプロトタイプを生きる ▶ もし社会を良くしたいのであれば、まずは自分の人生、自分の家庭、自分の会社で、今、理想を生きるべき
- ◇ 何かを本気でしたい？ ▶ そのために、今日、何をしたいかを聞いてみる ▶ 面接の話

3. 赦す

・ 赦すの実践

- 「世界を変えようとするのはやめなさい。そうではなく、世界についてのあなたの心を変えることを選べなさい」
- ◇ 愛が自分の心の中にあるなら、自分が行うすべてのことは正しく、愛が自分の心の中になければ、何を行っても間違ったものになる ▶ 相手が攻撃するとき、「自分が何をすべきか」ではなく、「どのようにすれば、正しい心の状態でいられるか(瞬間の訓練)」が問題
- ◇ 人間関係のあらゆる接点は、愛か、愛を求める叫び声(怖れ)か、のいずれかしかない ▶ そして、自分の反応は、赦すべきか、赦さずにおくべきかの二つしかない ▶ この世界に生きることは、非常にシンプルになる ▶ 誰かが愛を表現しているなら、自分も愛を表現する以外にできることはない。誰かが、愛を求めて叫んでいるなら、その愛を与える以外に応答の方法などない ▶ 私たちが何をしようと、世界が私たちに何をしようと(しているように見えようと)、私たちの応答は常に愛である
- ◇ 「複雑さはエゴに属するもの、簡潔さは愛に属するもの」 ▶ 愛の原理に従うとき、私たちが行うすべてのことが同じになる
- ◇ 問題は自分の外ではなく、自分の中にある ▶ 私たちは、自分の両親、教師、友人、配偶者、子供、政治家、市場、天候に至るまで、世界のありとあらゆるものを問題に仕立てている
- 赦すは簡単ではない、人生をかけた大仕事 ▶ 毎日の意識の積み重ねと、訓練が必要
- ◇ まずは簡単なことから：車の割り込みに対して即座に赦す、人の心を傷つける小さな発言に対してすぐ赦す・・・ ▶ 筋トレと同様、心にも毎日のトレーニングが必要 ▶ 機会があるごとに、積極的に赦す
- 愛は動詞である
- ◇ 愛の醒めた夫婦ほど、あなたが嫌いな人ほど、愛する意味がある
- ◇ 沖縄大学での授業の話 ▶ 居眠りする学生とどう向き合うか？

4. いま、幸せであること

- ・ 誰よりも幸福であること ▶ 幸福でないリーダーが、チームを幸福に導けるわけがない
 - 人は「成功すれば、幸せになれる」と考えるが、現実とは逆 ▶ 幸福であるために前提は不要
 - 「幸せになれば成功できる」 ▶ 「これがやりたい」と心の底から願い、全身全霊を打ち込めるような仕事に就けば、やがて周囲から評価され、成功がもたらされる
 - ◇ 「これをやったら、高く評価されるだろう」という動機から、自分が本当にやりたいことと別の道を選んで富や名声を手に入れても空しいだけ
 - 愛に基づいて選択すると、うまく行く ▶ 人間の全ての行動は、愛か恐れか、どちらかに基づいている ▶ 最も恐れを抱いていない人(最も愛に生きる人)が、組織を導くのが最も合理的

5. 信じるということ

- ・ ある村での干ばつの話
 - 『ある村で長い間雨が降らず、村人たちはとても困っていました。このままでは農作物が全滅してしまいます。そこで村人は全員で長老のところに相談に行きます。「長老、雨を降らすにはどうしたら良いか教えて欲しい。」長老は答えます「雨が降ることを信じて心から祈るのだ。その祈りが心からのものであるとき、必ず雨は降るだろう。」

村人全員はそれからの7日7晩というもの、雨が降ることを信じ、夜を徹して必死で祈り続けました。しかし7日過ぎても雨は一向に降る気配がありません。そこで村人は再び全員で長老のところに外向きます。「長老、私たちは7日7晩、一睡もせずに心から雨が降ることを信じて祈り続けました。誰一人の心にも偽りはありません。それなのに雨が降る気配はどこにもないではないですか。」それを聞いた長老は答えました。「いや、ここにいる者は誰も雨が降ることを『信じて』はいないようだ。それが証拠に、誰一人としてここに傘を持ってきた者はいないではないか。』

長老の言う「信じる」とこと、村人の「信じる」ことは似て非なるもの

6. 心のトレーニング

- ・ 心の腕立て伏せ ▶ 心も筋肉と同じ、毎日訓練しなければ使い物にならなくなる